

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2019.7) 平成30年度:105.

「重症虚血肢に対する多職種でのチームアプローチ」重症虚血肢の創傷管理に対するチーム内での看護師の役割と課題

日野岡 蘭子, 古屋 敦宏, 内田 大貴, 菊地 信介, 柝窪 藍,
栗山 直也, 竜川 貴光, 東 信良, 佐藤 弘也, 高橋 由希

シンポジウム 重症虚血肢に対する多職種でのチームアプローチ 「重症虚血肢の創傷管理に対するチーム内での看護師の役割と課題」

○日野岡蘭子¹⁾ 古屋敦宏²⁾ 内田大貴²⁾ 菊地信介²⁾ 栢窪藍²⁾

栗山直也²⁾ 竜川貴光²⁾ 東信良²⁾ 佐藤弘也³⁾ 高橋由希³⁾

1) 旭川医科大学病院 看護部 2) 旭川医科大学 外科学講座血管外科

3) 旭川医科大学病院リハビリテーション部

重症虚血肢(以下CLI)患者に対する治療戦略は医師の治療のみならず、多職種でのチームによるアプローチが不可欠であることは近年コンセンサスとして周知され、コメディカルの様々な職種が専門性を発揮し、ディスカッションを通して患者の全人的医療を展開する形態へと変化してきている。

当院血管外科病棟では、入院時に既に感染壊疽を来しているCLI患者が多く、他院で切断を宣告されセカンドオピニオンを求めて来院し、栄養状態不良、ADL低下などの複合的な問題を抱える糖尿、維持透析の患者も多い。血行再建後も広範囲組織欠損を伴い骨髄炎管理に長期を要する患者に対し、最終的なゴール設定を含めた長期、短期目標を、達成までのプロセスが異なる職種がどう共有するかを考えていくのが、チームアプローチの一つの形態であると考え。

患者の入院後、医師は治療法を決定実施するとともに、他職種に対し栄養、理学療法、薬剤などの様々なことを統合的に判断し指示をする。看護師は入院前の患者の日常生活の情報から退院後の生活遂行能力を判断し、他職種と協働し生活遂行というゴールを目指す。壊疽を伴うCLI患者では、特定の医行為遂行が可能な看護師が毎日の創傷処置及び管理方法の判断を行い医師に報告する。また医師および病棟看護師、回診に同行する理学療法士間で適宜カンファレンスを行い情報を共有している。陰圧閉鎖療法では、実施時のスキンケアを始めとして、リハビリテーションへの支障が最小限となるためのデバイスの選択や、創の局所状態を見ての一時中断の判断は看護師が行い医師に報告し指示の確認を行う。理学療法士とは頻回に情報交換を行い、日々変化する患者の心理を含めた状態や、荷重、移譲の可否などの短期目標を共有し患者の最大限の機能を引き出すための装具やインソールについて相談しており、相互に患者に対するタイムリーな介入が可能となっている。

医学の治療のゴールは疾患の治癒であり、看護学のゴールは疾患の治癒も含めたその人の日常生活における満足度という客観的測定が難しい評価指標で考慮する。看護師は、患者が治療を受けるために必要な生活上の環境を整え、患者の持つ自然治癒力を最大限に引き出すための援助を行うとともに、治療を正しく受けるための意欲を維持させることが役割であると考え。患者に対して異なる役割を持つ多職種が概念は異なっても健康という同じ目標を共有するために重要なのは相互理解とコミュニケーションであると考え。